

2015年度 年次報告書



和歌山大学

国際観光学研究センター(仮称)
設置準備室

和歌山大学国際観光学研究センター
(2016年4月開設)の設置準備に関する報告

CENTER
FOR
TOURISM
RESEARCH

Contents

1	ごあいさつ……………	4
2	設置準備室について……………	5
2.1	目的……………	5
2.2	設置までの経緯……………	5
2.3	運営体制……………	5
2.3.1	組織図……………	5
2.3.2	特別主幹教授……………	5
2.3.3	意思決定機関……………	6
2.4	活動内容……………	6
2.4.1	制度設計……………	6
2.4.2	研究・教育サポート……………	7
2.4.3	広報、アドボカシー……………	8
3	活動報告……………	9
3.1	制度設計……………	9
3.1.1	研究ユニット……………	9
3.1.2	ユニットメンバー一覧……………	9
3.1.3	CTR研究員(仮)……………	11

3.2	研究・教育サポート	13
3.2.1	研究プロジェクト	13
3.2.2	英文論文集、出版計画	14
3.2.3	翻訳支援	16
3.2.4	ライブラリー・学会ジャーナル等研究資料整備	16
3.2.5	観光学部・観光学研究科一部科目の開講支援	17
3.2.6	外部機関連携活動の支援	17
3.2.7	UNWTO. TedQual申請準備	18
3.2.8	FD研修開催	18
3.3	広報、アドボカシー	18
3.3.1	広報ツールの作成	18
3.3.2	オープンキャンパスでの広報活動	20
3.3.3	ニュースレター発行	20
3.3.4	外部機関との連携促進	20
3.3.5	オープンセミナー等の企画運営	31

1 ごあいさつ



和歌山大学国際観光学センター(仮称)設置準備室 2015年度年次報告発刊にあたって

我が国における観光学研究は、概して世界の観光研究動向に大きく後れを取っていると言われていています。こうした中、本学は、観光学の分野において学部から博士後期課程まで一貫した教育課程を有する唯一の国立大学であり、観光学術学会や関西観光教育コンソーシアムの設置を通じて国公立の各種観光系学部・学科等間の連携を促進し、我が国における観光学の確立と観光学教育研究を飛躍させるための取組を進めてきました。また、英サリー大学教員による研究セミナー・講演会・夏季集中講座等の開催、豪クイーンズランド大学との共同による海外インターンシッププログラムの実施等、観光学で世界をリードするトップレベルの大学との国際的な連携も推進してきたところです。

このような取組みが評価され、2015年度文部科学省における、「大学改革に積極的な取り組みを行う大学を重点支援するための国立大学の機能強化」予算において、本学の「国際観光学センター(仮称)構想」が認定されました。

本構想は、観光学教育・研究分野で世界をリードするサリー大学、クイーンズランド大学等との連携をいかした「国際観光学センター(仮称)」を設置し、世界一線級の外国人研究者を招へいし、また、「国連世界観光機関による観光教育・訓練・研究機関としての認定」を、我が国で初めて取得することを通じて、アジアにおける観光研究ハブを形成することを目的とするものです。

今年度は設置準備期間として、①世界トップレベルの外国人教員、優秀な若手研究員の採用、②外国人研究員を中心とする研究ユニット形成など組織整備、③センター施設や電子ジャーナルをはじめとする研究環境の整備に取組み、センター開設に向けた準備がほぼ整ったところです。2016年4月からは「国際観光学研究センター」として、更なる観光学教育研究の推進に取り組んでまいります。

設置準備室長 山田良治

2 設置準備室について

2.1 目的

和歌山大学全学機関 国際観光学センター(CTR=Center for Tourism Research) を2016年4月に開設するため、各種規程の策定を含め、研究員の採用と組織整備、研究推進に係る環境整備に加え、内外の関係機関との連携及び、広報活動の展開等、基盤整備に取り組むことを目的とする。

2.2 設置までの経緯

2007年4月……経済学部観光学科設置

2008年4月……観光学部(観光経営学科、地域再生学科)設置

2011年4月……大学院観光学研究科修士課程観光学専攻設置

2014年4月……大学院観光学研究科博士課程観光学専攻設置

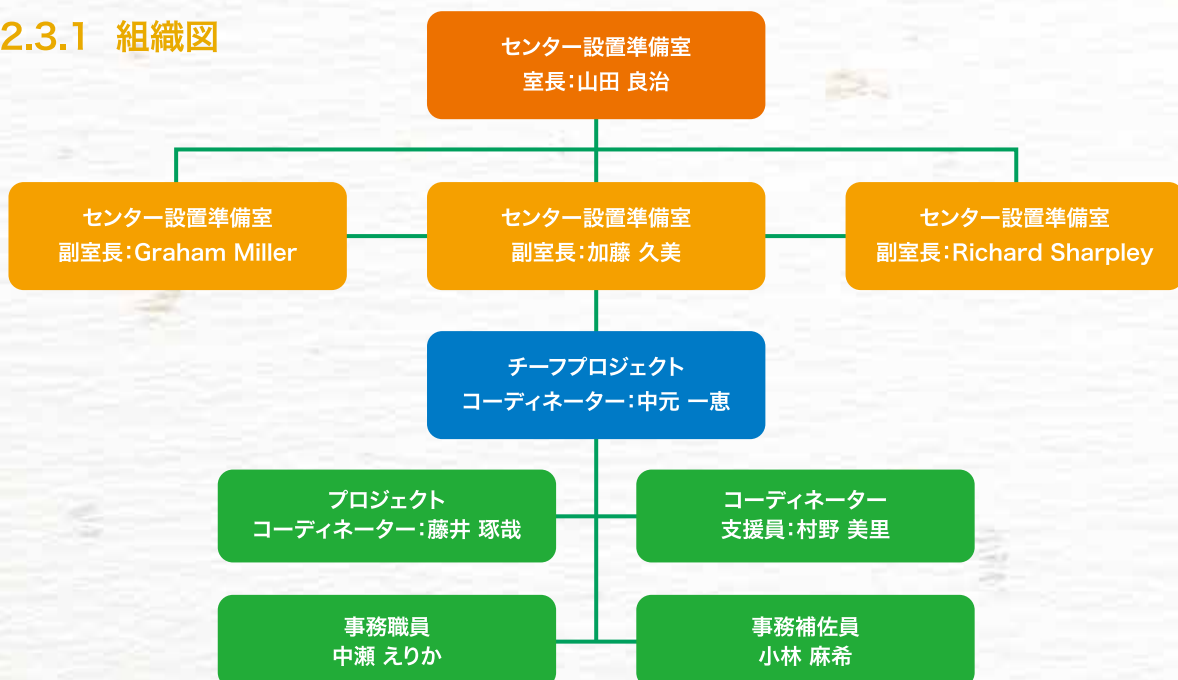
2015年4月……国際観光学センター(仮称)設置準備室開設

2016年4月……国際観光学センター(仮称)開設予定

2.3 運営体制

設置準備室は下図の体制で運営(2016年3月現在)

2.3.1 組織図



2.3.2 特別主幹教授

Graham Miller(イギリス、サリー大学教授)

Brent W. Ritchie(オーストラリア、クイーンズランド大学教授)

Richard Sharpley(イギリス、セントラル・ランカシャー大学教授)

2.3.3 意思決定機関

●ワーキング・グループ・ミーティング

(構成員: 室長、副室長、観光学部国際化戦略委員長、企画課長、チーフプロジェクトコーディネーター、プロジェクトコーディネーター、コーディネーター支援員、事務職員、事務補佐員、観光教育研究センター特任助手、観光教育研究センター事務補佐員)

●ウィークリー・ミーティング

(構成員: 室長、副室長、チーフプロジェクトコーディネーター、プロジェクトコーディネーター、コーディネーター支援員、事務職員、事務補佐員、観光教育研究センター特任助手、観光教育研究センター事務補佐員)

2.4 活動内容

2.4.1 制度設計

●規程等の整備

●名称、ロゴタイプの意匠

- センター名称を「国際観光学研究センター」とすることを確認
- センター独自シンボルマークを作成

●研究ユニットの整備

- Key Research Units(全4): Sustainability, Development, Culture & Heritage, Management
- Strategic Research Units(全3): Sports, Digital Media & Information, Space & Mobility
- Cooperative Research Units(全3): Education, Food & Agriculture, DMO

●CTR研究員制度策定

- CTR研究員(仮)登録申請受付(特別主幹教授:3名、観光学部:25名、他学部:11名、客員等外部機関:2名)
- CTR特別研究員制度策定(客員フェロー制度)

●CTRスタッフの採用

- 特別主幹教授(雇用契約:3名は2015年度から、3名は2016年度から開始)
- CTR専任研究員(雇用契約:1名は2016年3月から、3名は2016年4月から開始)
- CTR特任教員(准教授:1名、助教:1名、助手:1名)
- CTR事務補佐員(1名)

2.4.2 研究・教育サポート

●プロジェクト登録

- 研究プロジェクト: 18件、外部機関連携型プロジェクト: 3件

●英文論文集、出版計画

- 「観光研究の高度化・国際化推進による次世代型観光モデル創出プロジェクト報告書(2015年度)」Developing An Innovative Model through the Advancement and Internationalisation of Tourism Research: A Project Report 2015 出版
- 「観光研究におけるアジアのハブ拠点の構築に向けた研究高度化・国際化プロジェクト報告書(2015年度)」Developing An Asian Hub through the Advancement and Internationalisation of Tourism Research: A Project Report 2015 出版
- 学術誌「Tourism Planning & Development」(2017, Issue 1) 日本特集号の編集方針策定と編集、執筆

●論文執筆支援

●文献管理ソフト「EndNote basic」講習会開催

●翻訳支援(国連世界観光機関(UNWTO)出版物和訳)

- UNWTO Sustainable cruise tourism
- UNWTO Tourism Highlights

●ライブラリー・学会ジャーナル等研究資料整備

- 主要図書購入
- UNWTO eLibrary
- Routledge Handbooks Online

●観光学部・観光学研究科一部科目の開講支援

- 2016年度GP(Global Program※専門科目のすべてを英語による講義で履修可能とするプログラム)カリキュラムの実施調整
- 特別主幹教授、CTRスタッフによる授業、ゲストレクチャーの実施

●外部機関連携活動の支援

●UNWTO国際会議運営ボランティアの支援

- UNWTO. TedQual(観光学教育研究プログラム国際認定)申請準備

●FD研修開催

2.4.3 広報、アドボカシー

●広報ツールの作成

- CTRホームページ、フライヤー(A4、ポストカード、名刺サイズ)、パワーポイントスライドテンプレート作成
- オープンキャンパス参加(CTRパネル展示)
- ニュースレター発行(観光学部発行「World Tourism Update」継承)

●国際機関および国内機関との連携促進

- UNWTOアフィリエイト・メンバー加盟、各会議、地域大会参加
- 太平洋アジア観光協会(PATA)代表を講演講師として招へい
- 海外研究教育機関との提携
- 国際学術大会スポンサー
- 国際学術大会(2017年大会)主催立候補

●国内外のネットワーキング

- 学会、セミナー等イベント参加

●オープンセミナー等の企画運営

- 観光教育研究セミナー(全10回)
- World Tourism Day 記念シンポジウム
- 国際シンポジウム
- 開設記念セミナー準備(2016年度主要セミナーを「CTR開設記念シリーズ」とする)

3 活動報告

3.1 制度設計

3.1.1 研究ユニット

Unit Leaders	Sub Leaders	Strategic Research Units
Key Research Units		
Tourism & Sustainability	Graham Miller	加藤 久美
Tourism & Development	Richard Sharpley	堀田 祐三子
Tourism & Culture, Heritage	Anna Leask (予定)	吉田 道代
Tourism Management	Brent W. Ritchie	佐野 楓
Strategic Research Units		
Tourism & Sports	Thomas Hinch (予定)	Gordon J. Walker (予定), 伊藤 央二
Tourism & Digital Media, Information	尾久土 正巳	吉野 孝
Tourism & Space, Mobility	中串 孝志	尾久土 正巳
Cooperative Research Units		
Tourism Education	藤田 武弘	神田 孝治
Tourism & Food, Agriculture	大西 敏夫	藤田 武弘
Tourism & DMO	藤田 武弘	——

2016年3月現在

3.1.2 ユニットメンバー一覧

Tourism & Sustainability

Unit Leader / Graham Miller

Sub Leader / 加藤 久美

Members / Adam Doering、足立 基浩、大浦 由美、出口 竜也、中串 孝志、永瀬 節治、藤田 武弘、堀田 祐三子

Tourism & Development

Unit Leader/Richard Sharpley

Sub Leader/堀田 祐三子

Members/大浦 由美、木川 剛志、澤田 知樹、藤田 武弘

Tourism & Culture, Heritage

Unit Leader/Anna Leask(予定)

Sub Leader/吉田 道代

Members/海津 一郎、王 妙発、神田 孝治、木川 剛志、竹鼻 圭子、東 悦子

Tourism Management

Unit Leader/Brent W. Ritchie

Sub Leader/佐野 楓

Members/大井 達雄、佐々木 壮太郎、竹田 明弘、竹林 明、竹林 浩志、出口 竜也、廣岡 裕一

Tourism & Sports

Unit Leader/Thomas Hinch(予定)

Sub Leaders/Gordon J. Walker(予定)、伊藤 央二

Member/竹林 明

Tourism & Digital Media, Information

Unit Leader/尾久土 正巳

Sub Leader/吉野 孝

Members/大井 達雄、木川 剛志、北村 元成、中串 孝志、宮部 真衣

Tourism & Space, Mobility

Unit Leader/中串 孝志

Sub Leader/尾久土 正巳

Members/辻本 勝久、山崎 直子、大貫 美鈴、秋山 演亮

Tourism Education

Unit Leader／藤田 武弘

Sub Leader／神田 孝治

Members／足立 基浩、伊藤 央二、海津 一郎、王 妙発、大井 達雄、大浦 由美、大西 敏夫、尾久 土 正巳、木川 剛志、岸上 光克、北村 元成、佐々木 壮太郎、佐野 楓、澤田 知樹、竹田 明弘、竹鼻 圭子、竹林 明、竹林 浩志、辻本 勝久、出口 竜也、中串 孝志、永瀬 節治、東 悦子、廣岡 裕一、堀田 祐三子、山田 良治、米山 龍介

Tourism & Food, Agriculture

Unit Leader／大西 敏夫

Sub Leader／藤田 武弘

Members／植田 淳子、大浦 由美、岸上 光克、辻 和良、宮本 久美

Tourism & DMO

Unit Leader／藤田 武弘

Members／木川 剛志、竹林 明、出口 竜也、廣岡 裕一

2016年3月現在

3.1.3 CTR研究員(仮)

Adam Doering (国際観光学センター設置準備室准教授)

Graham Miller (国際観光学センター設置準備室副室長、和歌山大学特別主幹教授、サリー大学教授)

Brent W. Ritchie (和歌山大学特別主幹教授、クイーンズランド大学教授)

Richard Sharpley (国際観光学センター設置準備室副室長、和歌山大学特別主幹教授、セントラル・ランカシャー大学教授)

秋山 演亮 (宇宙教育研究所長、宇宙教育研究所教授)

足立 基浩 (経済学部教授)

伊藤 央二 (観光学部講師)

植田 淳子 (食農総合研究所(仮称)設置準備室特任助教)

王 妙発(経済学部教授)
大井 達雄(観光学部准教授)
大浦 由美(観光学部教授)
大西 敏夫(経済学部教授)
大貫 美鈴(宇宙教育研究所客員教授)
尾久土 正巳(観光学部教授)
海津 一郎(教育学部教授)
加藤 久美(国際観光学センター設置準備室副室長、観光学部教授)
神田 孝治(観光学部教授)
木川 剛志(観光学部准教授)
北村 元成(観光学部教授)
佐々木 壮太郎(観光学部教授)
佐野 楓(観光学部准教授)
澤田 知樹(観光学部准教授)
竹田 明弘(観光学部准教授)
竹鼻 圭子(観光学部教授)
竹林 明(観光学部教授)
竹林 浩志(観光学部准教授)
辻 和良(食農総合研究所(仮称)設置準備室特任教授)
辻本 勝久(経済学部教授)
出口 竜也(観光学部教授)
中串 孝志(観光学部准教授)
永瀬 節治(観光学部准教授)
東 悦子(紀州経済史文化史研究所長、観光学部教授)
廣岡 裕一(観光学部教授)
藤田 武弘(観光学部教授)
堀田 祐三子(観光学部教授)
宮部 真衣(システム工学部講師)
宮本 久美(食農総合研究所(仮称)設置準備室特任教授)
山崎 直子(観光学部アドバイザリーボードメンバー)
山田 良治(国際観光学センター設置準備室室長、観光学部教授)
吉田 道代(観光学部教授)
吉野 孝(システム工学部教授)
米山 龍介(観光学部教授)

3.2 研究・教育サポート

3.2.1 研究プロジェクト

担当者	研究タイトル
伊藤央二	ネパール連邦民主共和国のスポーツツーリズムに関する資格制度とその制度が地域雇用に及ぼす影響について
伊藤央二	余暇時間における身体活動の阻害要因とその折衝方法が心理的健康に及ぼす影響について
大井達雄	観光事業における需要予測モデルの開発とリスクマネジメントへの応用に関する研究
大浦由美	国有林野の「協働型管理」におけるツーリズム活用・創出の意義と課題
尾久土正巳	プラネタリウムを使った高野山の全方位デジタルミュージアム
海津一郎	西岡虎之助蒐集中世絵画史料コレクションの復元と模写技法の基礎的研究
神田孝治	観光に焦点をあてた歓待についての地理学的研究
木川剛志	都市カーネルの抽出とその暗黙値を活用した観光資源開発
佐野楓	サービス業界におけるソーシャル顧客関係管理の理論と実践に関する研究
藤田武弘	市民農園の新たな展開を通じた都市と農村との協働推進に関する研究
堀田祐三子	観光の発展に伴う都市空間形成の変化と生活者による空間形成・管理の発展に関する研究

担当者	研究タイトル
山田良治	高等教育機関における観光教育のあり方に関する国際比較研究
吉田道代	都市におけるソーシャルマイノリティの文化・社会・政治的特性の観光資源化
加藤久美	自然信仰による復興支援：福島県相馬郡飯舘村山津見神社の天井絵復元
加藤久美	地域資源の活用によるツーリズムを通じた災害復興についての教育・研究プロジェクト
加藤久美	クリティカルツーリズム研究におけるアジア太平洋圏の視点
加藤久美	Sustainable tourism
堀田祐三子	日本における観光教育のグローバル化戦略に関する研究－海外演習プログラムの開発
伊藤央二	スポーツツーリズムにおける阻害要因ならびに阻害要因折衝とスポーツツーリズムが生成する地域愛着の関連性について※アルバータ大学(カナダ)との共同研究
大井達雄	六本木アートナイトが及ぼす経済波及効果の計測に関する研究※森ビル(株) 森美術館との共同研究
廣岡裕一	アジア旅行市場の研究 ※(株)JTB総合研究所との共同研究

3.2.2 英文論文集、出版計画

■論文集出版

- 「観光研究の高度化・国際化推進による次世代型観光モデル創出プロジェクト報告書(2015年度)」
Developing An Innovative Model through the Advancement and Internationalisation of Tourism Research: A Project Report 2015(2016年3月発行)

本学観光学部が2013年度に文部科学省より交付を受けていた期間3年の特別研究経費「観光研究の高度化・国際化推進による次世代型観光モデル創出プロジェクト」の最終年度の成果としてとりまとめた。当経費は2015年度に、観光をキーコンセプトとする「機能強化」予算の指定を受けた関係で、CTR構想と関連する観光学研究の組織的な研究活動へと発展したが、当初の計画に従い本報告書の出版を実現させた。国際化推進の具現化を果たすため、日本語版に加え、英語版でも発行の運びとなった。

■「観光研究におけるアジアのハブ拠点の構築に向けた研究高度化・国際化プロジェクト報告書(2015年度)」 Developing An Asian Hub through the Advancement and Internationalisation of Tourism Research: A Project Report 2015(2016年3月発行)

CTR設置に伴い文部科学省から本学に交付された特別研究経費「観光研究におけるアジアのハブ拠点の構築に向けた研究高度化・国際化プロジェクト」2015年度(期間4年の初年度)における研究成果の一部を集成。上述の通り、昨年度まで文部科学省から本学観光学部に交付されていた特別研究経費「観光研究の高度化・国際化推進による次世代型観光モデル創出プロジェクト」から、CTR設置をコアとした本学全体の機能強化プロジェクトの一環として発展的にそれを継承したものである。研究対象の枠組みを再編成して社会の新たな潮流に即した領域も取り込み、日本語での発行に加え、一部を英語化し、英語版も刊行された。

●英文学術誌出版準備

■「Tourism Planning & Development」(2017, Issue 1) 日本特集号の編集方針策定と編集、執筆

日本の観光産業、観光研究・教育を取り巻く社会、経済、政治的状况についてあらゆる切り口から論じ、世界に発信するため、観光学研究の主要な学術誌であるTaylor & Francis社の「Tourism Planning & Development」の特集号として2017年の発行を目指す。本学特別主幹教授、CTR副準備室長であるRichard Sharpley教授を編集主幹に、CTR研究員(山田良治観光学部教授、加藤久美観光学部教授、堀田祐三子観光学部教授)が客員編集員を務め、英語化支援も含めて出版に取り組んでいる。

●文献管理ソフト「EndNote basic」講習会開催(2015年7月/ユサコ株式会社)

EndNoteは国際的にも広く利用されている文献管理ソフトウェアである。観光学部を中心に他学部からも計11名の参加者が集まり、実習を交えて1時間の講習が行われた。文献データベースと文献リスト作成機能をもった研究活動に有用なツールとして、本学の教職員・学生であれば無償利用が可能。今後も要望に応じて講習会開催を予定している。

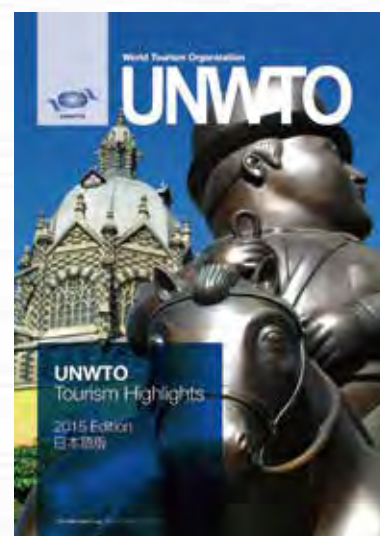
3.2.3 翻訳支援

●国連世界観光機関(UNWTO)出版物和訳

■UNWTO Tourism Highlights

UNWTOでは、過去1年間の世界観光の動向について各国からの統計データを基にまとめた「UNWTOツーリズム・ハイライト」を毎年発行しており、その日本語版がUNWTOアジア太平洋センターから発行されているが、9月に発行された2015年日本語版冊子の作成に本学が協力した。

同冊子は、主に各国の国際観光客到着数及び国際観光収入のデータを基に、世界全体及び地域別の国際観光動向を分析し解説しており、人々の国際間の動きと世界情勢の関連やそれに伴う経済効果等の概要を理解することができる。



3.2.4 ライブラリー・学会ジャーナル等研究資料整備

●UNWTO eLIBRARY

UNWTOのアフィリエイト・メンバーへの加盟を受けて、2016年2月より、学内ネットワークからの接続を開始し、同サービスが提供するツーリズム統計や調査・報告、トレンドレポート等の資料の閲覧やダウンロードが可能となった。(アクセスURL:<http://www.e-unwto.org>)



●Routledge Handbooks Online

2016年2月より、以下のコレクションについて、学内ネットワークからのアクセスが可能となった。(アクセスURL:<http://www.routledgehandbooks.com>)

- ・Environment & Sustainability eBook Collection
- ・Sport & Leisure eBook Collection
- ・Tourism, Hospitality and Events Management eBook Collection

3.2.5 観光学部・観光学研究科一部科目の開講支援

●観光学部

■「サステナブル・ツーリズム」

観光学部2～4回生を対象とした英語にて実施の夏季集中講義。英語によるディスカッションやプレゼンテーションを行った。

■「観光とキャリアデザイン」

CTRコーディネーター3名でゲストレクチャーを実施。CTRの紹介と各自の経歴紹介の後、パネルディスカッション形式で留学や海外での就労経験等について対談し、学生からの質問にも答え、キャリアパスについての示唆を与えた。

●観光学研究科

■「サステナブル・ツーリズム特論」

大学院観光学研究科生(修士)を対象に、英語での夏季集中講義を実施した。文献講読、事例収集、ディスカッション、プレゼンテーションを行った。

■「Professor Graham Millerとのミーティング2015」

大学院観光学研究科生(修士・博士)を対象に、各自の研究内容に関するディスカッションを通したリサーチ・コンサルテーションをチュートリアル形式で実施。

■「特別講義「観光と開発」+Research Consultation 2015」

大学院観光学研究科生(修士・博士)を対象に、特別講義に加え、リサーチ・コンサルテーションを実施。

3.2.6 外部機関連携活動の支援

●UNWTO 「International Conference on Heritage Tourism」

UNWTO及び国土交通省観光庁は2月25日(木)、奈良県奈良市の東大寺総合文化センター金鐘ホールを会場に「遺産観光に関する国際会議」を共催した。UNWTOアフィリエイト・メンバーである和歌山大学からは、加藤久美CTR副センター長(観光学部教授)が「遺産の保存と活用の両立」に関するセッションのモデレーターを務めると共に、観光学部4回生の学生3名がボランティアとして参画したが、CTRにてこのボランティア学生の募集や参加支援を行った。



3.2.7 UNWTO. TedQual申請準備

「UNWTO. TedQual」とは、UNWTOの関連組織であるUNWTO Themis Foundationの実施する観光学教育、研究、訓練プログラムの質の向上を目的とした認証制度である。世界基準の評価を受けるだけでなく、認証を受ければ観光教育、研究のグローバルネットワーク(交換プログラム、共同研究、国際学会等)への参加やThemis Foundationとの共同プログラムの実現が可能となる。国際舞台での本学観光学部及びCTRのプレゼンスを高め、日本そしてアジア太平洋地域における観光学研究の牽引機関としての発展が期待される。国内初となる本システムの認証取得を目指し、全学プロジェクトとしてCTRの主導の下、観光学部を審査対象に申請準備を進めている。

3.2.8 FD研修開催

FD(Faculty Development)活動の一環として、観光学部GP(Global Program)担当教員を対象に、英語での授業実施トレーニングプログラムであるブリティッシュ・カウンシルのAcademic Teaching Excellence (ATE)の学内研修を開催した。3月23日からの2日間の集中講座に観光学部教員6名が参加し、ワークショップ形式のトレーニングを通してスキルアップに活用した。今後も要望等を基に、トレーニング機会を提供する予定としている。

3.3 広報、アドボカシー

3.3.1 広報ツールの作成

●シンボルマークの制定

コミュニケーションマークとして、シンボルマーク(ロゴ)を制定し、広報物や各種資料等に使用することを原則とした。基本コンセプトを「つながり」とし、「世界とつながる」、「人と人とのつながり」など、広いネットワークや深い関係性のシンボルとなることを意識している。デザインはセンターの英略称である「CTR」の表記を元に行っているが、CとRにはサークルや地球等が連想されるような円形を用いている。また、基本カラーは若草色という日本の伝統色を使用することで、海外へのアピールを高めている。この基本カラーは随所に用い、イメージ統一を図っている。



●ホームページの開設

2015年9月18日、準備室ホームページを開設し公開した(URL: <http://www.wakayama-u.ac.jp/ctr/>)。CTRの概要やスタッフ紹介の他、主催セミナー等のイベント案内や国内外の学会や会議等への参加報告等を掲載している。海外への情報発信及び、海外からのアクセスも多くなることを踏まえ、日英の二言語対応とした。CTR開設後に順次、ユニットやプロジェクトの活動紹介も掲載予定。

ビジュアルデザインにも配慮し、CTR基本カラーに統一した他、「和」を意識したモチーフを盛り込んでいる。



●フライヤーの作成

イベントでの配布や往訪、来訪時のセンター紹介のツールとしてフライヤーを作成。日英対応の両面デザインで、A4サイズの外、ポストカードサイズ、名刺サイズにも展開させ、学会や会議の際のネットワーキングでも活用している。多くの情報を盛り込むのではなく、インパクトのあるデザインにし、CTRの認知を高めることを狙っている。和紙をイメージした背景に加え、鶴のモチーフは和柄のカラーズで日本らしさを強調した。さらに、鶴が飛翔していくようにセンターの飛躍への願いも込めている。このモチーフは上述のホームページの他、各種広報物等にも使用し、一体感を演出している。



●パワーポイントのスライドテンプレートを作成

学会でのプレゼンテーションやイベント等でのセンター紹介に利用できるよう、マイクロソフトパワーポイントのスライドテンプレートを作成。表紙は上述のフライヤーと同様のデザインにして統一感を出し、本文用のスライドは鶴のモチーフで使われている和柄をアクセントにしたタイプの外、ロゴマークのみのシンプルなタイプも用意し、プレゼンテーションの内容に合わせて選択可能とした。デザインやカラーに一体感をもたせることに加え、スタッフが様々な機会と同じテンプレートを利用することによる、センターのイメージ醸成や認知度向上を狙っている。



3.3.2 オープンキャンパスでの広報活動

2015年7月開催の学内オープンキャンパスにて、観光学部棟にポスターを掲示。国際的な側面における観光学部との連携も行う研究センターが開設されることを高校生やその保護者、及び学内関係者にアピールした。



3.3.3 ニュースレター発行

観光学部観光教育研究センターとCTRの共同編集・発行によるニュースレター「WTU(Wakayama University Tourism Update)」が10月に発行された。これは、観光学部が同タイトルで発行していたものを両センターでの共同発行として内容を拡充し、継承した。観光学部・CTRそれぞれの活動報告や世界の観光学事情の紹介の他、学生や教員の論文を掲載。学内や関係各所に配布された他、両センターのホームページ上にも掲載。



3.3.4 外部機関との連携促進

3.3.4.1 国際機関との連携

●UNWTOアフィリエイト・メンバー加盟、各会議、地域大会参加

■UNWTOアフィリエイト・メンバーの加入



和歌山大学は、9月12日～17日に南米コロンビア共和国メデジン市で開催された第21回国連世界観光機関(UNWTO)総会にて、UNWTOアフィリエイト・メンバー(賛助加盟員)への加盟が正式に承認された。同総会に、本学を代表してCTRが出席し、正式加盟の瞬間に立ち会った。この加盟により、今後はUNWTOが実施する国際観光に関する研究や教育機会等に積極的に関与することが可能となり、また、本学の特徴のひとつである観光学を通じた本学全体の国際化や、地域に国際的な観光の知見やノウハウを還元していくための基盤づくりが可能となる。

■バングラデシュ及びUNWTO共催「International Conference on Developing Sustainable and Inclusive Buddhist Heritage and Pilgrimage Circuits in South Asia's Buddhist Heartland」

バングラデシュ人民共和国政府民間航空観光とUNWTOが主催する「南アジアの仏教中核地帯における仏教遺産及び巡礼路の持続可能で包括的な開発に関する国際会議」が、10月27～28日の2日間、同国首都ダッカ市にて開催された。この会議に、CTR設置準備室の副室長である加藤久美(観光学部教授)がゲストスピーカーとして登壇し、日本の仏教遺産や巡礼路の事例を紹介した。



■UNWTO及び観光庁共催「International Conference on Heritage Tourism」

UNWTO及び国土交通省観光庁は2016年2月25日、奈良県奈良市の東大寺総合文化センター金鐘ホールを会場に「遺産観光に関する国際会議」を共催した。UNWTOアフィリエイト・メンバーである本学からは、CTR設置準備室の加藤久美副室長(観光学部教授)が「遺産の保存と活用の両立」に関するセッションのモデレーターを務めると共に、観光学部4回生の学生3名が運営ボランティアとして参画した。



■観光庁主催「世界観光機関（UNWTO）活用検討会」第1回、第2回出席

本学同様にUNWTOにアフィリエイト・メンバーとして参画する日本国内の関係者等により同機関の今後の活用方策に関して検討を行う会議が東京にて行われた。アフィリエイト・メンバー8団体（(株)JTB、松蔭大学、(公社)日本観光振興協会、(公財)日本交通公社、日本政府観光局（JNTO）、（JNTO）、（一社）日本旅行業協会（JATA）、北海道大学及び本学）及び観光庁、UNWTOアジア太平洋センター、奈良県（UNWTOアジア太平洋センター誘致）が出席し、これまでのUNWTOに係る日本政府の取り組みが紹介された他、日本国主催による2016年2月及び6月開催のUNWTO国際会議についてディスカッションが行われた。本学からも会議開催に向けた提案を行い、実際に上述の通り、モデレーターとして参画した他、学生ボランティアの送り出しに貢献した。

●太平洋アジア観光協会（PATA）代表を講演講師として招へい

毎年9月27日は、UNWTOが提唱する「World Tourism Day（＝WTD、世界観光の日）」である。これは、1970年の同日にUNWTOの設立を定めたUNWTO憲章が採択されたことを記念し、1980年に制定されたもの。現在では年毎のテーマにより、各国で祝賀イベント等が開催されている。2015年のテーマは「One billion tourists, one billion opportunities」。

UNWTOアフィリエイト・メンバーとなった和歌山大学では、世界観光の日を祝し、本年は「World Tourism Day記念イベント：観光教育フォーラム2015『大観光時代の観光教育について考えるー10億人の観光客、10億回のチャンスー』」と題したフォーラムを、本学観光学部棟にて開催した。太平洋アジア観光協会（PATA）CEOのMario Hardy氏による講演「Tourism Education: Trends in Asia and the Pacific」及び、今年度から本学特別主幹教授に就任した英国 University of Central LancashireのRichard Sharpley教授による講演「Tourism and higher education: Nurturing leadership for one billion opportunities」が行われた。フォーラムには観光及び教育関係者や市民など約50名が参加し、上述の講演の他、活発なディスカッションやフォトセッション、情報交流会が開催された。



●サンティアゴ・デ・コンポステーラ大学観光学研究センターとCTRの観光研究協力に関する覚書の締結

2015年6月に締結した本学とスペイン、ガリシア州のUniversity of Santiago de Compostela (USC)の大学間連携協定に続き、10月15日には、USCの観光学研究センター (Center for Tourism Studies and Research)とCTRの観光研究協力に関する覚書が取り交わされた。これらの協定は、和歌山県の熊野古道、サンティアゴ・デ・コンポステーラの巡礼路という「ユネスコ世界遺産巡礼路」をそれぞれ身近に有する研究教育機関として、「参詣道」という共通のテーマを掲げていることから締結に至った。

また、和歌山県とガリシア州の間でも同15日に、「姉妹道」の提携を柱に、包括的協力協定が結ばれた。



●APTA学会スポンサー

観光学術誌「Asia Pacific Journal of Tourism Research (APJTR)」も出版しているAPTA (Asia Pacific Tourism Association)は、観光とホスピタリティ分野における主要な国際的観光学会で、毎年、アジア太平洋地域の持ち回りで学会を開催している。

「Developments of the New Tourism Paradigm in the Asia Pacific Region」をテーマとして5月14日～17日にマレーシアのクアラルンプールで行われた2015年大会で、和歌山大学は大会スポンサーとして参加することで、観光学研究機関であることを各国にアピールした。フィリピンにおけるコミュニティ・ベースド・ツーリズムに関する研究プロジェクトの報告も行い、特にフィリピンからの参加者を中心に高い評価を受け、活発な議論が行われた。



●TTRA学会(2017年)主催立候補

TTRA(Travel & Tourism Research Association)のアジア太平洋支部の年次総会「2015 Asia Pacific Chapter Conference」が12月4日～6日にかけて東京で開催され、CTRも出席した。TTRAが発行する観光学術誌「Travel and Tourism Research」はトップレベルのジャーナルとして評価されている他、UNWTOや主要な国際観光機関であるWTTC(World Travel & Tourism Council)との連携が強く、ビジネス研修も行っており、学术界のみならず世界各国の産業界からも多くの会員が所属している。世界各地で支部が活動しており、和歌山大学は、アジア太平洋支部の2017年大会の本学での主催に立候補している。

3.3.4.2 国内外のネットワーキング

●学会、セミナー等イベント参加

■The 5th Conference of the International Association for Tourism Economics出席

6月30日～7月3日にかけて香港で開催された第5回観光経済国際協会学会で、CTR研究員、観光学部大井准教授が、研究プロジェクト「The Economic Impact of an Art Festival in Japan: A Case Study of Roppongi Art Night」の報告を行った。ビッグデータの活用など観光分野でも注目を集めている統計に関する研究は、今後、CTRも取り組みを進めていくことを予定している。



●「ツーリズムEXPOジャパン」出席

9月24日～27日にかけて東京で開催されたツーリズムEXPOジャパンで、25日に行われた国際観光フォーラムの「アジア旅行市場分析2015～成長するアセアン市場」セッションに登壇し、(株)JTB総合研究所の協力を得て調査を実施したアジア旅行市場の分析結果を報告した。アジア各国の産学官様々な立場のパネリストによるパネルディスカッションでは、各国の最新動向について議論が交わされた他、日本の旅行市場について参加者から質問があり、国内外の観光関連業従事者の日本市場への関心の高さがうかがえた。

●「第一回サンティアゴ巡礼フォーラム FAIRWAY Santiago」出席

10月16日にスペイン、ガリシア州のシダーデ・ダ・クルトゥーラ・デ・ガリシアで開催された「第一回サンティアゴ巡礼フォーラム FAIRWAY Santiago」に出席した。聖地巡礼や歴史遺産観光に関する展示会やパネルディスカッション、大聖堂でのミサとボタフメイロの見学の他、和歌山大学観光学部で開講している集中講義「Pilgrimage」の紹介が行われた。このイベントの出席は、前述の通り、University of Santiago de Compostela(USC)と本学との大学間連携協定及び、USC観光学研究センターとCTRとの観光研究協力に関する覚書につながったサンティアゴ・デ・コンポステーラと和歌山県の熊野古道の巡礼路という「ユネスコ世界遺産巡礼路」をそれぞれ身近に有する研究教育機関として、「参詣道」という共通のテーマを掲げていることに端を発する。



●CAUTHE主催「26th Annual Conference」及び「Crises Response and Recovery for the Tourism Industry Symposium」出席

CAUTHE(Council for Australian Tourism and Hospitality Education)は、主にオーストラリアとニュージーランドの高等観光教育及び研究の発展を目指しオーストラリアのシドニーで設立されたが、現在は太平洋地域を中心に多くの国や地域が会員となっている。観光学術誌「Journal of Hospitality and Tourism Management」も発行しており、太平洋地域の主要な観光学会と位置付けられている。

2016年2月8日～11日にかけてオーストラリアで開催された年次総会と、続けて2月12日に開催された本シンポジウムに本学からは、加藤CTR設置準備室副室長(観光学部教授)と中元CTR設置準備室特任准教授の他、本学特別主幹教授のBrent Ritchie教授(The University of Queensland)が参加した。シンポジウムでは、オーストラリアの観光産業が直面している危機管理や復興の諸課題についての報告に基づき、議論が行われたが、Ritchie 教授がリーダーを務めるCTR設置準備室のTourism Managementユニットで計画中の共同研究の情報収集のため、業界関係者との意見交換等を行った。

●「The 5th Asian Forum for the Next Generation of the Social Sciences of Sport」出席

2016年2月16日から18日に韓国の木浦大学(Mokpo National University)で開催されたThe 5th Asian Forum for the Next Generation of the Social Sciences of SportにCTR設置準備室Tourism & Sports Unitリーダー(予定)のDr. Tom Hinch(University of Alberta教授)とサブリーダー伊藤央二(本学観光学部教員)が参加し、それぞれ基調講演と研究発表を行った。

さらに、同フォーラムにて伊藤ゼミの観光学部2回生5名のポスター発表「The intentions of volunteering at the Tokyo 2020 Olympic and Paralympic Games and past volunteer experiences: The roles of different types of volunteer activities」が「2016 Best Student Paper Award」を受賞した。



3.3.4.3 CTR出席イベント一覧

日程	イベント名	主催
5/14～5/17	21st APTA Conference	APTA (Asia Pacific Tourism Association)
6/3～6/5	27th CAP-CSA Joint Meeting and the UNWTO Regional Ministerial Conference	UNWTO
6/11～6/14	The 30th Korea World Travel Fair	KOTFA (The Korea World Travel Fair)

日 程	イベント名	主 催
6/18～6/21	5TH ADVANCES IN HOSPITALITY AND TOURISM MARKETING AND MANAGEMENT CONFERENCE (AHTMM)	AHTMM、立命館アジア太平洋大学
6/30～7/3	The 5th Conference of the International Association for Tourism Economics	IATE (International Association for Tourism Economics)、Hong Kong Polytechnic University、Leeds Beckett University
7/4～7/5	観光学会第4回全国大会	観光学会、阪南大学
7/16	大学のグローバル化戦略の実現に向けて	三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社、大阪大学
8/26～8/27	2015年東北亜観光学会大学生国際発表大会	東北亜観光学会
8/31	人流物流ネットワークとその周辺研究会	統計数理研究所
9/12～9/17	UNWTO General Assembly - Twenty-first session	UNWTO
9/24～9/27	ツーリズムEXPOジャパン2015	(公財)日本観光振興協会、(一社)日本旅行業協会(JATA)
10/2	ダーク・ツーリズムに関する研究会	立命館大学
10/15	Japan Day	University of Santiago de Compostela, Spain

日 程	イベント名	主 催
10/16	第一回サンティアゴ巡礼フォーラム FAIRWAY Santiago	ガリシア州、サンティアゴ・デ・ コンポステーラ(スペイン)
10/24	山津見神社天井絵復元完成記念 フォーラム	東京芸術大学
10/27~10/28	The International Conference on Developing Sustainable and Inclusive Buddhist Heritage and Pilgrimages Circuits in South Asia's Buddhist Heartland	バングラデシュ人民共和国 政府 民間 航空 観光、 UNWTO
11/26	第1回世界観光機関(UNWTO)活用 検討会	観光庁
12/5~12/6	2015 TTRA Asia Pacific Chapter Conference	TTRA (Travel and Tourism Research Association)
12/14	大学にとってのレピュテーション・マ ネジメントとその重要性	British Council
2/12	CAUTHE Conference on Crisis Response and Recovery for the Tourism Industry	CAUTHE (Council for Australian Tourism and Hospitality Education)
2/16~2/18	The 5th Asian Forum for the Next Generation of the Social Sciences of Sport	木浦大学(韓国)
2/24~2/26	遺産観光に関する国際会議	UNWTO、観光庁
3/4	第2回世界観光機関(UNWTO)活用 検討会	観光庁、日本政府観光局

3.3.4.4 CTR来訪者一覧

日 程	氏 名	所 属
5/20	黒須宏志氏、家長千恵子氏、田中敦氏	(株)JTB総合研究所
	山本敏明氏、三浦孝士氏	(株)JTB西日本
7/2	Dr. David Telfer、 Dr. Atsuko Hashimoto	Brock University, Canada
7/15	堀信太郎氏、藤永大助氏	UNWTOアジア太平洋センター
7/23	Prof. Hanqin Qiu	香港理工大学
7/24	Dr. Prathana Kannaovakun、 Dr. Pornpissanu Promsivapallop	Prince of Songkla University, Thailand
7/28	Assoc. Prof. Christie Lam	大阪大学
9/9	中川亮平氏	京都外国語大学
9/27	Mr. Mario Hardy	PATA
9/27	守屋邦彦氏、柿島あかね氏	(公財)日本交通公社
10/8	青島美奈子氏	日本政府観光局

日 程	氏 名	所 属
10/28	出口弘教授、木嶋恭一教授	東京工業大学
	Dr. Utomo Sarjono Putro、 Dr. Pri Hermawan、 Lecturer. Santi Novani	Bandung Institute of Technology Indonesia
11/12	岡田美奈子氏	株式会社やまとごころ
11/12~11/21	Dr. Sheranne Fairley	The University of Queensland, Australia
11/24	天野貴子准教授	University of Central Lancashire, UK
12/9~1/3	Assoc. Prof. Edieser De La Santa	University of Philippines
1/20	Dr. Katy Campbell、 Ms. Mimi Hui	University of Alberta, Canada
2/3	藤田賢氏	日本アセアンセンター
2/6~2/16	Prof. Thomas Hinch、 Prof. Gordon J. Walker	University of Alberta, Canada
3/6~3/11	Dr. Joseph Cheer	Monash University, Australia
	Assis. Prof. Mary Mostafanezhad	University of Hawaii
	Assoc. Prof. Georgette Leah Burns	Griffith University, Australia

3.3.5 オープンセミナー等の企画運営

以下、全12回のイベントを企画開催した(悪天候により1開催は中止となった)。

- 観光教育研究セミナー(全10回)
- World Tourism Day 記念シンポジウム(2015年9月)
- 国際シンポジウム(2016年3月)

3.3.5.1 開催イベント一覧

開催日	イベント名	ポスター
5/20(水)	観光教育研究セミナー2015 Vol.1 「エルトゥールル Frigate Ertugrul -An Ottoman Ship in Japan」	
	講師等	
	Mr. Tufan Turanlı BOSAV (Bodrum and Karia - History, Promotion and Tourism) Foundation-Bodrum (トルコ)	
開催日	イベント名	ポスター
6/29(月)	観光教育研究セミナー2015 Vol.2 「スペイン・ガリシア州 サンティアゴ・ デ・コンポステーラ 巡礼道と大学で の学び—国際化にむけて—」	
	講師等	
	Ms. Anne May Forryan University of Santiago de Compostela (スペイン)	

開催日	イベント名	ポスター
7/2(木)	観光教育研究セミナー2015 Vol.3 「Tourism Development in Niagara Falls, Canada」	
	講師等 Dr. David J. Telfer Dr. Atsuko Hashimoto Brock University (カナダ)	
開催日	イベント名	ポスター
7/17(金)	観光教育研究セミナー2015 Vol.4 「高等教育における観光研究と研究教育」(悪天候のため中止)	
	講師等 Prof. Kaye Cheon 香港理工大学(香港)	
開催日	イベント名	ポスター
7/24(金)	観光教育研究セミナー2015 Vol.5 「Benefits of Studying Hospitality and Tourism in Phuket」	
	講師等 Assoc. Prof. Dr. Prathana Kannaovakun Dr. Pornpisanu Promsivapallop Prince of Songkla University(タイ)	

開催日	イベント名	ポスター
9/27(日)	World Tourism Day 記念シンポジウム「大観光時代の観光教育について考える」	
	講師等	
	Mr. Mario Hardy PATA Prof. Richard Sharpley University of Central Lancashire (イギリス)	
開催日	イベント名	ポスター
11/5(木)	観光教育研究セミナー2015 Vol.6 「講談師が語る『エルトウルル号海難事件とトルコ航空機日本人救出劇』」	
	講師等	
	旭堂 南陽 氏 (講談師、大阪旭堂南陵一門)	
開催日	イベント名	ポスター
11/18(水)	観光教育研究セミナー2015 Vol.8 「Mind the Gaps? Tourism Risk Management Research」	
	講師等	
	Prof. Brent W. Ritchie The University of Queensland (オーストラリア)	

開催日	イベント名	ポスター
12/10(木)	観光教育研究セミナー2015 Vol.9 「教育旅行と危機管理」	
	講師等	
	Prof. Brent W. Ritchie The University of Queensland (オーストラリア) 加藤 久美 教授 和歌山大学	
12/16(水)	観光教育研究セミナー2015 Vol.10 「The politics of tourism policy process」	
	講師等	
	Assoc. Prof. Edieser Dela Santa University of the Philippines (フィリピン)	
3/8(火)	国際シンポジウム「Tourism and Sustainability」	
	講師等	
	Dr. Mary Mostafanezhad The University of Hawai'i, Manoa (アメリカ) Dr. Georgette Leah Burns Griffith University (オーストラリア) Dr. Joseph Cheer Monash University (オーストラリア) Assoc. Prof. Adam Doering 加藤 久美 教授 Mr. Simon Wearne 和歌山大学	

CENTER FOR TOURISM RESEARCH

【発行】和歌山大学国際観光学研究センター

〒640-8510 和歌山市栄谷930

電話 073-457-7025

URL <http://www.wakayama-u.ac.jp/ctr/>

【発行日】2017年3月



Center for Tourism Research

2015年度 年次報告書

和歌山大学 国際観光学研究センター(仮称)設置準備室